

【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援

- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
- ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
- ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

11月に入り、寒さが深まってきました。2012年もあと少し。今年も様々なことがありました。釜石での支援活動もまだまだ続いています。どうぞこれからもご支援をお願いいたします。

#### 【大友司祭 釜石勤務】

9月21日～25日の日程（現地）で、大友司祭が北海道教区の派遣聖職として釜石勤務をしてくださいました。大友司祭は勤務の中で福島県を訪問されるなど、精力的にお働きくださいました。その大友司祭から原稿をいただきましたので、掲載します。

#### 【福島への被災地訪問】

司祭 ジェローム大友正幸

今回は、釜石の支援センターでの奉仕は二度目です。昨年の奉仕は、所謂センター業務と、仮設住宅の訪問でしたが、私の奉仕は主としてチャプレンシーのあるところへ、被災者や、ボランティア活動を行う人々の支えになればと願い、関わって来ました。今回の訪問も、短期間ではありますがその趣旨は同じです。釜石では神愛教会、神愛幼稚園の新築起工式にも立ち会い、主日礼拝、幼稚園での誕生祝福、聖餐式なども行って来ました。期間中2日間時間をいただき、地震津波と共に、原発による放射能に苦しむ福島県を訪れ、越山健三司祭の案内で、各地を視察、被災者や支援活動を行う人々にも逢ってまいりました。1日目は、家内の美奈子と共に、郡山に向かい、おりしも福島での支援の後訪れていた武藤健一司祭も同道、市内を車で案内していただきました。越山司祭の手には2台の放射能計数機が用意され、ここはホットスポットで、現在0、6マイクロシーベルト等、車を止めては窓を開け、放射能を測定しておりました。確かに、教会の周辺は放射能値が高く、除染のため切り落とされた木の株周辺は基準値をはるかに超えておりました。郡山の人口およそ34万人とのこと、すでに4～5万の人が転出、実際に他の場所に避難している人も多く、今は22～3万人位ではないかとの話、街は人影もなく、福島市に匹敵するこの中堅都市も原発の不安にさらされた街でした。翌日はやはり越山司祭の案内で、武藤司祭と我々夫婦が乗り、郡山から北上、宮城県に入り、白石を経て、日本聖公会で唯一人的犠牲者を出した新地の磯山聖ヨハネ教会の周辺を訪れました。一瞬に襲ってきた津波の恐ろしさを改めて知らされ、町ごと流された無残な姿、放置されたままの倒れた墓石が哀れでした。新地の日本聖公会の支援センターを訪れ、その後、南相馬のちょうど福島原発20Kのボーダーにある、六角支援隊(市民の手による支援施設で、聖公会の婦人会の一部や、有志が関わっている)に責任者の大留隆雄さんを訪ねました。大留さんは私とほぼ同年代で、北海道の士幌出身の方です。震災当時の生々しい状況以上に、現在の被災者の様子、特に仮設住宅で希望もなく毎日を送る人々の姿、本当に心痛む者がありました。つい先日82歳の婦人が、将来の希望も見えず自死したとのこと、痛々しい限りです。20K圏内はやっと立ち入りは許されたものの、今だ住む事が出来ず、家も、畑も津波にあったまま、しかも放射能の汚染地域なのです。何時自分の家に家族と共に住む事が出来るか全く見通しが立ちません。土地を離れて行った人々、家族の生き残った人々などなどいろいろ希望の無い確執があり、人と人の絆も崩れつつある様子でした。これは岩手では感じられない事で、それもこれも、原発が招いた人災である事を思う時、これを後世に残す事は、後々の子どもたちを守るためにも許されない事と強く感じました。さらに私たちは入城が許された、10K圏ぎりぎりまで車を進めパトカーに遮られて帰路につきました。昼食は南相馬の20K圏のすぐ外側にある食堂でしたが、麺類も野菜も産地のものとのこと、何か試されている思いで、うどんに野菜天を載せ頂きました。さて、南相馬を出て、浪江、飯館など、ゴーストタウンとなった街々を通過した福島に向かいましたが、途中の放射線量は依然として高く、そんな町の田にも、畑にも、売る事も食する事も出来ない作物が育てられている姿、なんとも痛々しいばかりです。ただ、道端の花や草がやたらに大きく育っている様子、何か放射線による異常現象かとさえ思わされました。料理研究家の辰巳芳子も云っておりますが、地震と津波だけなら回復も可能で、復興も進むでしょうが、原発は、いのちを損ない、回復の希望が無い災害です。本当にその事を強く強く感じます。今回の福島訪問は短時間でしたが、北海道教区も、釜石だけでなく、この福島が抱えた、原発の苦しみに、今後の各地の原発の廃炉も含め関わっていかねばと、強く思います。

#### 【北海道教区GPS 釜石訪問】

北海道教区のGPSが11月4日(日)～9日(金)の日程で、釜石を訪問されました。参加されたのは、向井哲子さん・植松三千代さん・沖田京子さん・大町出さんの4名です。釜石では戸別訪問や仮設プログラムなどの活動をされました。ありがとうございました。

#### 【吉野執事 釜石勤務】

11月の派遣教役者として、北見聖ヤコブ教会の吉野執事が11月16日(金)～21日(水)の日程で、釜石で勤務を行います。釜石でのよき働きをお祈りします。

## 【支援品要請・冬物衣料】

秋から急激に冬になり、センターでは冬物衣料が不足気味です。震災から一年半が経過しましたが、まだまだセンターでは冬物衣料などの物資が求められています。また、あわせて手芸用の針や糸、毛糸なども求められています。どうぞみなさんのご協力をお願いいたします。

## 【釜石での働き】

※ 震災支援室ブログ(海老原さん発信)より抜粋

10月31日

もう10月も終わりです。あっという間の10月でした。月日の経つのがやたらと早く感じるのは歳のせいでしょうか。積み残しの仕事が多まっています。

本日は10時より神愛幼児学園で子供礼拝。その前に二ヶ所の仮設で打ち合わせ。あわだたい朝でした。今日はハロウィンという事もあって礼拝のお話は南瓜。当然給食も南瓜。おやつも南瓜。釜石たちは意外に南瓜好きなのです。私は子供の頃は甘い南瓜が嫌いでした。その甘味が美味しく感じられるようになったのは大人になってからです。ときどき煮つけを自分でも作ります。一番おいしいのは南瓜のポタージュですね。

礼拝後には小白浜方面の仮設へ。ちょっとセンターによって一仕事したら園のお昼に間に合いませんでした。それから園庭で釜石たちとひと遊び。今日はブランコで遊びました。意外に難しいのは、ブランコのこぎ方です。どのように説明すればいいのかわかりません。困りました。

11月3日

本日は戸別訪問デー。午前には松倉の仮設に行ってきました。お届けしてきたのは靴下カバーと記念タオルとピンクッションの三点セット。靴下カバーは昨年に見沢温もり届け隊が製作してくださったのは別ルートで届けられたものです。寒くなってきたので好評でした。ピンクッションは三光教会でお作りくださった物です。こちらでも喜ばれていました。山田さん・宮崎さんご苦労様でした。また午前のセンター当番だった村井さん、お疲れさまでした。

11月5日

今日は残念な出来事がありました。物資の送り方にはルールがあります。いろいろと細かいルールもありますが、多少のことは目をつむります。最低限守っていただきたいのは送る前に事前連絡をすることです。連絡してこちらの指示に従ってください。今日は予告なしに20箱以上の荷物が送られてきました。私にとってはゆかりの深い教会なので、あえて言いますが、大変迷惑です。センターを知っている方ならおわかりになると思いますが、置き場もなければ、整理する人手もありません。みなさまのお気持ちは大変ありがたいのですが、どうかご配慮願えれば幸いです。くれぐれもよろしくお願いします。

さて忙しくてイライラしっぱなし(自分で車の鍵をなくすトラブルも含めて)の一日でしたが、最後にハッピーが。夕方到着した北海道組の植松さんが私の好物である「マルちゃんやっきっぺ」を差し入れてくださいました。ゆうじ感激。

11月8日

午後一で札幌チームが離釜。センターは私一人に。寂しい思いをしていると、地元ボランティアのYさん登場。センター当番をお願いしました。私はそのスキに園に借りたものを返しに。

午後のことですが、電話がかかってきました。今年の8月に一度だけ訪問させていただいた仮設の方でした。お配りしたチラシを見てお電話をしたとのこと。お困りごとがあるとの相談でしたが、なんとかお役にたつことができました。ときどきこのような電話があります。知人に紹介されたとか、チラシをもらったとか、前から一度訪ねてみたかったとかいろいろなケースがありますが、初めて来る方がまだまだいます。そして初期段階の緊急支援的なニーズもまだまだ多く存在しています。まだまだ幅広い支援活動が求められているのです。応えていけるセンターでありたいですね。

## 【いっしょに歩こう！プロジェクト】

「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動の様子は、月一度発行予定の「ニュースレター」や、「いっしょに歩こうプロジェクト！」ホームページ<http://nssk.org/walk>で、ご覧いただけます。

## 【支援室の活動】

インターネットで支援室ブログが見られます。毎日の釜石ベースの活動もアップされます。<http://nsskhokkaido.blog89.fc2.com> 又は、「日本聖公会北海道教区ホームページ」→「東日本大震災」→「震災支援室ブログ」の手順でご覧下さい。

## 【震災支援室より】

- ◎ 支援室ニュースは、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。支援室ニュースのバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページにでも見る事ができます。
- ◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

## 【連絡・問合せ先】

電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377

Eメールアドレス：saigai@nssk-hokkaido.jp

## 【釜石ベース】〒026-0031 釜石市鈴子町5-4 「聖公会 釜石被災者支援センター」

☎0193-55-4524、090-6999-7840

Eメールアドレス：nssk311@yahoo.co.jp